



TITLE:

静脩 Vol. 8 No. 1 (1971.5) [全文]

AUTHOR(S):

CITATION:

静脩 Vol. 8 No. 1 (1971.5) [全文]. 静脩 1971, 8(1)

ISSUE DATE:

1971-05

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/65942>

RIGHT:

情 報 と 図 書 館

平 岡 武 夫

情報と図書館を、郵便によそえてみた。郵便には国境がない。外交断絶の国にも、戦線の彼方へも、郵便物ははこばれてゆく。情報なしに人はすごせないのである。図書も立場や国籍を越えて人人に読まれる。ところで、手紙は特定の相手に伝達されると、郵便局の任務はおわるけれども、図書は万人のために提供されるもの、いつまでも多くの人に読まれることを目的としているので、図書館はどの一冊の本からも完全に解放される日はない。あふれるほどに詰めこんでいることは、郵便屋さんの鞆も、図書館の書庫も同様であるが、鞆は配達をおわれれば空になる。書庫はたまるばかりである。

情報の激増に、今に地球がその重さにたえられなくなるであろうと、オッペンハイマー博士をして嘆かした。この嘆きを真正面からかぶっているのが図書館である。何とかしなくてはなるまい。加えて、どの一つの図書館も激増する情報のすべてを集めることはできないから、いきおい他の図書館に借らねばならず、他からも借りられねばならない。相互協力の体制化は不可避である。郵便でいえば、国際郵便の相互関係に相当しよう。しかし図書館の現状では、自分の所だけで手に余っているのに、よその分まで連帯関係をもたねばならぬとしたら、これはもう人力の及ぶところではない。

飛脚から汽車・航空機・衛星へ、郵便業務の機械化はいちじるしく進んでいるのに、図書館の方はなお旧態依然たる所がある。複写だけは筆写から乾板・ライカ・マイクロと移って、1・10・100・1000と、一日の複写量の単位を飛躍させているが、分類・検索の方は、依然として難渋している。各機関・部局の分類が伝統的に不統一であることも、大きなガンになっている。郵便局は前に配達局名を書かせようとして失敗したが、山川の地勢や歴史的沿革による地域名はそのままにしておいて、新たに工夫した001から999に至る郵便番号の方法は成功している。図書館でも、各機関・部局の伝統的分類とは別に、根底から発想を異にする方法が考え出されるであろう。それが即ち機械を使いこなすことにもつらなろう。

図書館はいま、関係する情報量の激増と、世をあげての機械化と、内外二つの要因から、激動期に入っている。これに効果よく対処するためには、じっくり考えて、それを試行する余裕が、人にも、時間にも、経費にも、なければならない。図書館を現状のままで追い廻しては、利用者が情報世界に落伍するうき目を見ること必定であろう。

京大蔵和書たずねある記（下）

教養部 非常勤講師 熱田 公

さて、このようなわけで京大各部局の和書をたずねあるくにつけても、わが京大は、和書の一大コレクションであることに気付く。京大の全学蔵書は約290万冊とのことであるが、うち図書館と文学部で約95万、このうちざっと30%は和書ではなかろうか。とすると31万冊、これは延冊数であるから、種類は5分の1とみれば約6万種。あまりに雑な見こみ計算であるが、こんな数字が頭にうかぶ。「図書総目録」の項目は約50万ということであるから、とするとその約1割が、京大にはある、とみていいのではないか。そのうち、重要文化財に指定されているもののほか、学術的にもきわめて価値の高いものが多数含まれていることはいうまでもない。

もっとも和書を蔵しているのは図書館と文学部とは限らない。私が今までお邪魔にあがったのは、人文科研、農学部（農経、造園等）、理学部（数学等）、工学部（建築、金属加工等）、法学部、経済学部、医学部そして薬学部である。数量的にはむしろ文学部と図書館が圧倒的に多いが、各部局とも、さすが京大の歴史を反映して、よくも和書を保管されているものだと感心する。

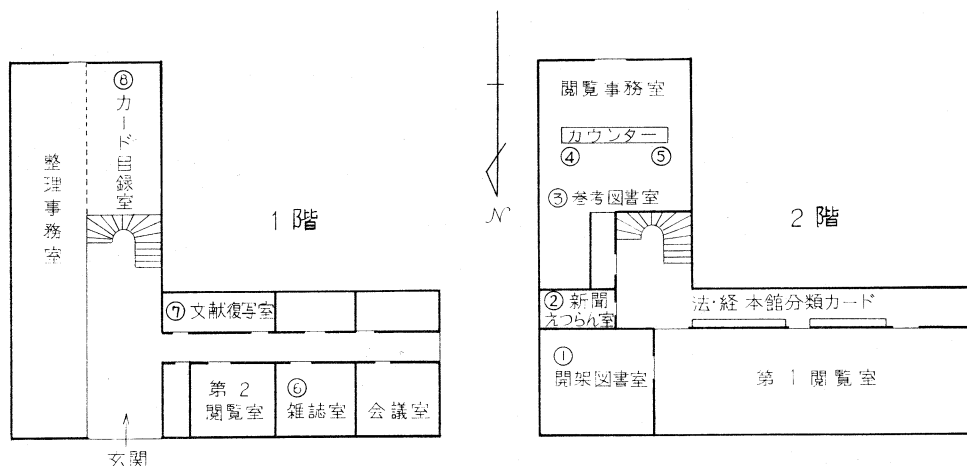
しかしその保管状況は各部局で区々である。和書が一番優遇されているのは、何といても図書館が抜群である。一、二の特殊文庫の例外を除いて、ほとんどすべて帙におさめられるか、ないし準備中である。和書を洋式の書架にならべ、しかも検索にも便利にするためには帙を作るしか仕方がないが、図書館は実によく整備されている。これにくらべると文学部は格段におちる。帙に入っているのはごく一部（私も国史の助手に在籍中少しは努めたが、予算の制約のほかになるべき業者も得られなくて、何ほども進行しなかった）、満員の書架にぎゅうぎゅうおしつめられ、数冊一しょでなければひきだせない場合もざらである。それでもまだ文学部の本は、表紙を補ったり、題せんをつけたり、保存と利用のための手は加えられている。それにくらべて理科系の某教室のごとき、立派なスチール戸棚に納まっているが、カードもなく、綴糸がきれたものもそのまま放置されている、といったケースもある。

このような保管状況の差をみるにつけても、京大蔵和書の保管と利用の面で、抜本的な改善が必要であるように思われる。まず、各部局で保管されていることは、それだけの必要はあるからであろうが、文学部以外はその利用も局限されているはずで、これはどこか一か所に集中する方がよいのではなかろうか。綿密なカードを作り、検索の便に供するとはいつても、和書は、流行のドキュメンテーションにはなじまないし、第一文章を読める人もごく限られている。その道の専門家でなければ整理作業は進められないが、これも集中管理をしてはじめて実現できることであろう。第二には、全学を網羅した目録を作成することである。これも専門家を養成しなければできないことではないが、現状ではあまりに宝のもちぐされであろう。そして第三には、保存のために、もっともっと金をかけるべきであろう。清家本の重要文化財も、甚だ貧弱な姿でしかない。指定文化財とは限らず、和書は今やかけがえのない文化財でもあることを、考慮していただきたいものである。

各図書室にさんざん迷惑をおかけした上に改善意見とはおこがましいが、京大が和書の貴重なコレクションであることをみるにつけても、もう少し金をかけて大切に扱ってもらえないものか、と思うのである。

——附属図書館（本館）利用のために——

(1) 案 内 図



(2) 各室とその利用

室 名	図 書 の 種 類	開架 閉架	の別	利 用	開 室 時 間
① 開架図書室	指 定 図 書 (※) 新 刊 和 書 新 着 和 雑 誌 [購入分]	開		閲覧のみ	午前9時～午後8時 (土曜は午後5時まで)
② 新聞閲覧室	前日の夕刊, 当日の朝刊	開		閲覧のみ	当分の間, 学内事情により午後7時まで
③ 参考図書室	参 考 図 書 (※※)	開		閲覧のみ	午前9時～午後5時 (土曜日は正午まで)
④ 閲覧貸出 カウンター	上記以外の本館図書 欧 文 雑 誌 (法学部 図書利用受付)	閉		閲覧・貸出 閲覧のみ	ただし, 係員に申し出て, 第1閲覧室において午後8時(土曜日は午後5時)まで利用可能
⑤ 参 考 カ ウ ン タ ー	(参考質問, その他)				法学部図書の利用は 午前10時20分} までに申し込み受 午後2時20分} 付
⑥ 雑 誌 室	新着和雑誌 (国内寄贈) 中 国・朝 鮮 を 含 む	開		閲覧のみ	
⑦ 文献複写室	学 内 所 蔵 文 献 学 外 所 蔵 文 献 (学内申込者に限る)				午前9時～午後5時 (土曜日は正午まで)
⑧ カ ー ド 目 録 室	全 学 総 合 目 録 (本館および法経両学部分) (類目録は2階第1閲覧室 横の廊下にある)				

※ 講義に直結した学生のための教官選定図書 (グリーンラベル)

※※ 辞書・年鑑・索引・文献目録など

- [注] 1 総合目録には開架室, 書庫, 参考図書室の図書の区別がありません。掛員におたずね下さい。
2 利用したい図書が部局の図書である場合は, 学内図書相互利用 (内規) 一覧表 (カード目録室にあり) を見て下さい。なお, その利用については, 自分の所属する学部または学科の図書室にご相談下さい。

(1階カード目録室)

- A. 本館・和漢書分類目録
分類項目内は書名の五十音順
- B. 本館・洋書分類目録
分類項目内は著者名（一部書名）の A
B C 順
- C. 本館・特殊文庫目録
特殊文庫ごとに分かれ、その中は分類
項目ごとに書名の五十音順
- D. 法学部・和漢書分類目録
分類項目内は書名の五十音順
- E. 経済学部・和漢書分類目録
分類項目内は書名の五十音順

書庫収容の余裕年数について

前号掲載の「京都大学の書庫収容状況一覧」の余裕年数について、部局図書室のある同僚から疑問を出されたので、誤解がないように、前号の編集責任者として、紙面をかりてもう一度説明しておきたい。

その疑問というのは、10年以上の余裕年数をもっている部局が6つほどあるが、実際それだけ長くもつのだろうかというのであった。

この余裕年数の数字は一前号の記事をよく読んでもらえればわかることだが一、一応のメドをつける一途として、45年3月末現在の収容余裕冊数をかりに44年度増加冊数で除して出したものである。ところがその年間増加冊数というのは、注記しておいたように、今後平均3.4%の増加率でのびてゆくと推定されているので、実際の余裕年数の数値は当然これよりもっと小さくなるだろうと思われる。

更にこの算出の基礎になっている「大学図書館実態調査」の『収容可能数』の数字（これは各部局よりの報告によっている）自体が、これも注記しておいたように、文部省の「閉架書庫の必要面積」の基準からみると、全学的には、すでに49万冊余も超過してつめこんでいるということを示しているのであるから、もしも計算をこの基準にしたがって、やり直してみるとということになれば、余裕年数はもっと大幅にダウンするのは自明の理である。

誤解をさけるために、はじめ、「図書室はうったえ一現状報告」欄に、「年間増加冊数の激増のために、20年はもたない一医学図書館」という原稿も用意していたが、これはスペースの都合上掲載できなかった。

前号の“書庫収容状況”特集の意図したところは、比較的ゆとりのある少数部局の書庫があと20年もつか18年もつかというようなことを問題にしようとしたのではなく、全学的にみての苦しい書庫収容の現状をうったえ、20年後には現在の300万の蔵書が2倍近くになる—それにたいする書庫スペースがどこに見出されるだろう？—という先行きも考えての打開策を、緊急にうちたてられるようもとめたものである。

(附属図書館 小国健一)

資料紹介

須田文庫目録の完成

静修 (Vol. 5 No. 3) でお知らせしましたが、故須田国太郎氏の愛蔵書が文学部に寄贈され、「須田文庫」として保存されることになり、この程その整理が終り、Ⅰ和書篇、Ⅱ洋書篇(冊子目録)が完成しました。「須田文庫」は、西洋・東洋・日本にわたる美術書を中心に学問の各分野の図書を加えて、約4000冊の蔵書である。「文庫」は文学部図書室哲学科書庫に収蔵されている。

ニ ュ ー ス

京都大学蔵書300万冊を突破

本号(6P)でお知らせしているように、昭和46年3月末で300万冊へあと1200冊となっていたが、5月18日に300万冊を突破した。京都大学では、明治30年7月23日に第1冊を受入れしてから74年間を要したことになる。現在、1年間に約10万冊づつ増加していることを思うと、更に300万冊増加するのに30年を要しないであろう。それ程、昔に較べて増加冊数は著しい。その理由としては大学の規模が大きくなったこと、研究費の増額など、いろいろの条件が考えられよう。しかし、莫大な量の図書を管理する図書館員も大へんなことであるが、これらの図書がいかに活用されているかも問題とすべきである。蔵書の中には学術的に無価値となったものがあるとしても、研究と教育のため、多くの人人に開放され利用されることを望みたい。

京 都 大 学 蔵 書 統 計

(昭和46年3月末現在)

部局別	計 別 種 別	昭和45年度 増 加 数			累 計		
		和 書 冊	洋 書 冊	合 計 冊	和 書 冊	洋 書 冊	合 計 冊
図 書 館		4,810	817	5,627	302,224	135,217	437,441
文 学 部		3,541	3,648	7,189	333,626	185,363	518,989
教 育 学 部		1,417	861	2,278	23,037	23,572	46,609
法 学 部		3,716	3,291	7,007	147,308	208,422	355,730
経 済 学 部		2,659	2,367	5,026	123,743	136,913	260,656
理 学 部		1,012	3,626	4,638	27,620	136,162	163,782
医 学 部		455	1,377	1,832	24,968	68,276	93,244
病 院		260	231	491	9,419	19,958	29,377
薬 学 部		321	630	951	5,854	8,624	14,478
工 学 部		3,223	6,952	10,175	78,484	136,002	214,486
農 学 部		3,853	2,319	6,172	112,823	105,205	218,028
農 場		16	1	17	988	97	1,085
演 習 林		220	59	279	3,862	1,836	5,698
教 養 部		7,155	5,926	13,081	131,914	93,858	225,772
化 学 研 究 所		182	1,032	1,214	5,619	15,152	20,771
人文科学研究所		4,008	1,255	5,263	252,039	26,552	278,591
結 核 研 究 所		40	84	124	1,002	1,512	2,514
工 学 研 究 所		144	520	664	2,384	4,353	6,737
木 材 研 究 所		112	242	354	3,147	2,524	5,671
食糧科学研究所		127	227	354	2,282	3,479	5,761
防 災 研 究 所		251	1,132	1,383	3,867	6,029	9,896
ウイルス研究所		35	290	325	173	1,736	1,909
経 済 研 究 所		880	662	1,542	12,127	6,600	18,727
基礎物理学研究所		114	687	801	1,790	13,448	15,238
数理解析研究所		79	2,218	2,297	1,556	21,198	22,754
原子炉実験所		528	1,148	1,676	4,567	9,288	13,855
霊長類研究所		29	192	221	227	482	709
東南アジア研究センター		422	910	1,332	1,008	3,840	4,848
大型計算機センター		111	155	266	127	273	400
経 理 部		71	101	172	3,921	320	4,241
施 設 部		12		12	745	58	803
合 計		39,803	42,960	82,763	1,622,451	1,376,349	2,998,800
金 額		円 79,202,640	円 255,384,592	円 334,587,232			

あとがき：正門をはいると、玄関前の楠が紛争のときの痛手をのりこえて、鮮やかな緑の葉を一杯に茂らせて、春をおう歌しているのが目にうつります。4月から編集スタッフが新しくなりました。委員はつぎのとおりです。

委 員：武内隆恭，山本 修，小山隆義，鈴木素子，小菅みさえ，吉井良之（以上本館），
広庭基介（文），藤本 俊（教養），金井 孝（農），近藤禎梃男（医）

連絡員：竹村 心（教育），松本昌子（法），堤 豪範（経），矢野正治（薬），小西敬子（理），
高木弘光（工）

京都大学附属図書館報「静脩」Vol. 8, No. 1 (通号40号) 1971年5月25日発行・編集発行人：
岩猿敏生 発行所：京都大学附属図書館・京都市左京区吉田本町・電代表771—8111 (内線) 2220～2238